出エジプト記 結晶の学び（二）4 第 23 週 エホバの御使いは、彼の民を導いて約束された地を所有させる

鳥瞰	旧約から新約において、わたしたちは常に「エホバの御使い」という称号を見ることが出来ます。出エジプト記第 14 章 9 節の御使いは、神の選びの民を導き保護しました。士師記第 2 章 1 節の御使いは神ご自身であり、しもべとして彼の選びの民に仕えました。マラキ書第 3 章 1 節では、キリストが契約の御使いです。啓示録において、キリストは神聖な行政の中で、もうひとりの御使いです。出エジプト記第 23 章 20 節の御使いは、神の民を道で守り、彼らを良き地の中へともたらしました。	
	真理要点	経験適用
1日	1．「エホバの御使い」という称号の意義について説明してください。 2．出エジプト記第 23 章 21 節から 22 節で、主の声に聞き従うことは、新約において、どのように適用されますか？	1．「エホバの御使い」という称号は、おもに神の御子キリストを指しています。彼は、神によって遣わされて、神の民を彼らの苦難の状況から救う方です。出エジプト記第 3 章 2 節と 6 節によれば、エホバの御使い、すなわち遣わされた方は、エホバご自身、すなわち遣わす方でした。そして、エホバは三一の神です。モーセを召して遣わすために、遣わす方である神は、遣わされた方としてモーセに現れました 2．今日キリストは、生ける方法でわたしたちの内側から神のために語られます。ヨハネによる福音書第 10 章で、主は良い牧者であり、「羊は彼の声を聞く」と言われます。キリスト、生ける方は、常にわたしたちの中におられます。わたしたちはキリスト、神の遣わされた方を内側に持っているので、彼に従わなければなりません。特に、わたしたちは彼の声に従うべきです。
2日	1．マラキ書はキリストの二度の来臨について啓示していますが、この違いは何ですか？ 2．わたしたちは神の命と性質を所有している神の子たちですが、日常生活の中でこの身分を忘れないことは、どのような益をもたらしますか？	1．彼は一回目の来臨において、神の使者です。神の使者として、キリストは神からの言葉やメッセージを神の民にもたらすだけではありません。彼ご自身が生けるメッセージです。キリストは二回目の来臨において、契約の御使い、諸国民の願い、義の太陽となられます。 2．例えば、ある兄弟と彼の妻が両方ともこれを認識し、人であるだけでなく神聖でもあることを知っているなら、彼らは互いに極みまで尊重するでしょう。争うのではなく、彼らは互いに尊び、互いに親切になるでしょう。さらに、この認識は、短気を起こすことから彼らを守るでしょう。短気を起こすよう誘惑されるとき、わたしたちは神の子たちであることを覚えておく必要があります。
3日	1．第七の封印が開封される前の寛容の時代について説明して下さい。 2．第七の封印が開かれた後の、天の光景で、神はどのように地上で行政を執行していますか？	1．福音を宣べ伝えて召会を生み出し、神の永遠のご計画を成就するという彼の目的のために、神は地上の罪深い状態を容認してこられました。ところが、第七の封印が開かれると共に、寛容の時代は終わって、別の時代がもたらされます。これは神の激怒の時代です。今や神は入って来て、地上の反逆と罪深い状態に介入されます。 2．キリストはもうひとりの御使いとして現れ、地上に神の行政を執行します。それは、大祭司として、聖徒たちの祈りをもって神に仕えるという方法においてです。彼は聖徒たちの祈りを神にささげるとき、それらに彼の香を加えられます。「香の煙」は、聖徒たちの祈りと共に香が神にたかれることを示します。聖徒たちの祈りは、神のエコノミーに逆らう地の裁きのためであるに違いありません。
4日	1．キリストがこの世の裁きを完了した後、彼はどのように戻られ、地を完全に所有されますか？ 2．キリストの再来の過程について、どのように天から下ってくるかを述べてください。	1．全地はキリストに属するようになります。その一つの部分も、他のだれにも属しません。今日多くの諸国民は戦って自分の領土を拡大しようとしますが、無駄に戦っています。なぜなら、彼らが獲得するものは何であれ、最終的にキリストに属するからです。再来して地を所有するとき、キリストはもうひとりの御使いのようです。彼は大いなる権威を持つもうひとりの御使いであり、彼の栄光のうちに来られます。 2．彼はまず雲の中でひそかに天から下って来られ（啓示録第 10 章 1 節でキリストはまだ雲に包まれております）、それから雲に乗って公に来られ(啓示録第 14 章 14 節で、雲の上に座しておられます)、最終的に彼は地上を照らし、大いなるバビロン、ローマの都を、彼の大いなる権威をもって滅ぼされます。（啓示録第 18 章 1 節で、彼の栄光が地を照らします、これは彼の地上への再来がさらに近づいていることを示します）
5日	1．出エジプト記第 23 章 20 節から、わたしたちは神の御使いがどのようなことをしているのを見ますか？ 2．出エジプト記第 23 章 31 節が記述している、「約束された地の境界」にはどのような霊的な意義がありますか？	1．御使いが予表しているのは、キリストが神によって遣わされた方であり、わたしたちを道で守り、わたしたちをその地の中へともたらすということです。良き地はすべてを含むキリストを予表します。こういうわけで、遣わされた方としてのキリストは、わたしたちを良き地としての彼ご自身の中へともたらします。この良き地は神の定められた御旨の目標、目的、標的です。良き地はキリストを予表するので、これはキリストが目標であることを意味します。 2．その境界は、「紅海からペリシテ人の海（地中海）に至るまで」でした。ここの海は死の水を表徴します。ですから、海から海に至るまでは、死から死に至るまでを表徴します。31 節はまた、その境界が「荒野からあの川に至るまで」であったと言います。川も死の水を表徴し、荒野は不毛を表徴します。わたしたちは地図を調べるなら、約束された地は死と不毛に取り囲まれていることを見ます。キリストの外では、死と不毛のほか何もありません。死と不毛がわたしたちの地としてのキリストを取り囲んでおり、それがキリストの境界線です。
6日	1．出エジプト記第 23 章 23 節から 24 節、第 32 章 33 節における、わたしたちを妨害する者、異教の部族は何を表徴していますか？ 2．出エジプト記第 23 章 33 節「彼らはあなたの地に住んではならない．それは、彼らがあなたをしむけて、わたしに対して罪を犯させることがないためである」、これはどのように説明できますか？	1．これらの妨害する者、その地を占有しているさまざまな異教の部族は、わたしたちの天然の命のさまざまな面を表徴します。これは、わたしたちの天然の命の中に、わたしたちがすべてを含むキリストを所有するのを妨げる多くの妨害者がいることを意味します。これらの異教の部族は偶像を持っており、あらゆる偶像の背後には悪鬼がいます。背後に悪鬼どもがいる偶像は、霊の勢力を表します。 2．異教の部族が良き地におけるイスラエルの罪の源であったことは、歴史の事実です。これは、天然の命が罪の源であることを示します。神の目に、天然の命にしたがって生きるすべての人は、施しをしたり慈善事業に寄付したりするときでさえ、絶えず罪を犯しています。神の民の間の罪の源として、天然の命は、彼らが良き地としてのキリストを所有するのを妨げます。
まとめ	律法の布告が、御使いと良き地に関する部分で結ばれています。またイスラエルの子たちが入ろうとしている良き地が異教の人で満ちていることは、わたしたちの天然の命のさまざまな面を表徴しており、キリストを得ることを妨げます。わたしたちはそれらが何であれ妥協せずに憎まなければなりません。またキリストの中で成長し、率先して天然の命を追い払う必要があります。神がわたしたちの天然の命を一度で切り取らないのは、このようにすることで、わたしたち の内側を空にしてしまい、悪鬼によって占有されてしまう危険があるからです。	